

オナガ についてネットじゃなく

「あえて図書館で」 調べてみた

本学構内でオナガはたびたび観察されている/彼らはどんな鳥なのか



オナガのヒナ@大学構内

ビューティフルな成鳥の姿@構内

(写真提供：日本獣医生命科学大学付属ワイルドライフ・ミュージアム)

雌雄同色。成鳥は頭が黒く、ヒヨドリくらいの大きさだがリッパな尾で大きく見える。

ヒナは握りこぶしより小さいが鶏卵よりはやや大きめ。**口の中が赤い**。ちなみに黄色いとムクドリで、ピンク色ならヒヨドリだそう。グイーグイーと声大きい(『野鳥をたすけるはじめの一步』)。

現在、見られるのは北陸・東海以北の本州。市街地や村落付近にすむ(『見る聞くわかる野鳥界』)。

家族計画にあたって、普通まず巣作りをし、そして産卵であるが、オナガは産卵後も巣材を運び、マイホームの手入れに熱心な傾向がある(『鳥類生態学入門』)。

成長過程において「**ヘルパー**」と呼ばれる、両親以外のサポート役がいることがある。群れで生活する鳥であり、猛禽類の「ツミ」の巣周辺で子育てをして、ツミの圧を借り、ハシブトガラスやネコに対抗したりする(『見つけて楽しむ身近な野鳥の観察ガイド』梶ヶ谷博)。ヘルパーは嫁のいないオスやリタイア後のオスが多く、親兄弟の子育てを手伝うパターン。鳥はオスの方が生まれた群れに住むことが多く、メスは生まれた翌年には嫁入りして新天地(?)を目指すそう(『見る聞くわかる野鳥界』)。

なお、オナガはカッコウに托卵されがちなことでも有名である。